

■岩崎和 映画評論家で映画製作者。啓蒙的批評家の一人であり、左翼陣営の戦闘的映画人と目される。

いわさきあきら

日比谷公園・1903＝ 東京生まれ。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

明治天皇没・1912＝ 9歳：

東京府立一中などを経て、

原敬首相暗殺1921＝18歳：

東京帝国大学独文科在学中から、{キネマ旬報社}発行の理論誌(映画往来)の編集を手伝いながら、シナリオや独映画の評論を書いている。後の東宝社長である森岩雄は、この早熟の青年を気に入り日活の企画会議(金曜会)の助手として傍において、

金融恐慌・・・1927＝24歳：「阿里山の侠児」が田坂具隆監督によって映画化されるなどして、卒業。洋画の輸入会社(田口商店)に勤め、そこで独の大手製作会社ウーファの代理人であった川喜多長政と邂逅。雑誌{新青年}に連載した「映画芸術史」に注目して訪れた映画作家佐々元十から、野田醬油ストライキの映像を見せられて衝撃受け、開眼。

世界恐慌・・・1929＝26歳：今東光委員長とする\_日本プロレタリア映画同盟(プロキノ)創立に参加。プロキノ最初の活動は、暗殺された山本宣治の葬儀を記録した「山宣葬」、

海軍軍縮条約1930＝27歳：「映画芸術史」出版。今東光が失脚すると、\*その委員長に推され、以後、粉骨砕身し、友の会も組織、

満州事変・・・1931＝28歳：「映画と資本主義」、\_早くも逮捕され豚箱体験するも、

五一五事件・1932＝29歳：「プロレタリア映画の知識」。\_プロキノとして権力による弾圧をつぶさに撮影記録し続けるが、

国際連盟脱退1933＝30歳：イリヤ・エレンブルク「これが映画だ」夢の工場」訳、

帝人疑獄事件1934＝31歳：\_ついに当局の圧力によりプロキノが解散させられ、

芥川直木賞始1935＝32歳：\_中国映画見学とかつて自分の書いた「宣伝煽動手段としての映画」を魯迅が翻訳したことを知ったことから、上海を訪問後、結婚し、執筆に専念。初対面の戸坂潤に頼まれて「唯物論全書～映画論」を書き、\_「唯物論研究会」に参加し、映画理論研究会の責任者となる。ますます書くことが困難になるなか、硬骨ぶりを発揮して、「映画の芸術」、

日中戦争始・1937＝34歳：「映画芸術概論」、

健保+総動員 1938＝35歳：長女が誕生。

第二次大戦始1939＝36歳：「映画と現実」と次々出版するが、国家統制を目的とした映画法にただ一人反対し、

大政翼賛会・1940＝37歳：\_唯物論研究会事件理由に懲罰的に拘禁されて、身体的ダメージを受けるも、

日米開戦・・・1941＝38歳：\*保釈されたため、転向の噂に左翼映画界が背を向けるなか、甘粕正彦の許可得た根岸寛一から、満州映画協会東京支社の囑託として迎えられ、以後、生涯の恩人として甘粕と根岸への敬意を持ち続ける。

創価学会検挙1943＝40歳：満州映画協会で「私の鷲」をプロデュース、代表的作品となるも公開されず。

敗戦・・・1945＝42歳：\_敗戦後、「朝日新聞」に日本映画の民主化方策について寄稿。根岸の招きで{日本映画社}製作局長に就任、

新憲法公布・1946＝43歳：\_ニュース映画「紀元節について」企画するも政府からストップ、自宅で突然(安藤明の手下と思われる)暴漢に襲われ重傷。「日本の悲劇」「Effects of the Atomic Bombs」製作で、今度はGHQのバジにかり、

極東裁判決・1948＝45歳：「日本の映画」。\_フィルムは没収され、{日本映画社}は破産して東宝の傘下{日映新社}となり、退社、

三大事件・・・1949＝46歳：「映画・こうして作られる」「映画論」「映画芸術の歴史」、国民大学文庫「映画芸術概論」、

朝鮮戦争始・1950＝47歳：「世界映画史」。{日本映画社}を辞め、今井正・山本薩夫・山形雄策らと、\_独立プロ{新星映画社}を作り、

独立回復・・・1951＝48歳：「映画スター小史」「目でみる世界の名作映画」。\_今井正監督「どっこい生きてる」、

マデー事件・1952＝49歳：「新しい映画の見方」。\*{日映}に密かに保管されていた「Effects of the Atomic Bombs」のラッシュ・プリントによりニュース映画「原爆特集」・短編記録映画「原爆の長崎」がほんの一部ながら公開され大反響。以後も全面公開求めて交渉続ける。山本薩夫監督「真空地帯」、

TV放送始・・・1953＝50歳：市民文庫「世界映画スター小史」、

自衛隊発足・1954＝51歳：「映画百科事典」に参加。\_山本薩夫監督「太陽のない街」、

55年体制始・1955＝52歳：J・H・ロースン「ハリウッドの内幕」訳。\_今井正監督「ここに泉あり」など製作。

国連加盟・・・1956＝53歳：\_名著「(岩波新書)映画の理論」、

なべ底不況・1957＝54歳：セルマ・ニコロース、ピーター・コーツ「チャーリー・チャップリン」訳。

インスタントラーメン・1958＝55歳：「日本映画作家論」「映画芸術の歴史」「現代日本の映画 その思想と風俗」、J・H・ロースン「劇作とシナリオ創作 その方法と理論」訳。

美智子妃・・・1959＝56歳：ポール・ロブスン「ここに私は立つ アメリカ黒人歌手の自伝」訳。

安保闘争・・・1960＝57歳：\_「{日映}との交渉の埒が明かず、{朝日新聞}に「原爆記録映画の公開を望む」を投稿。

タイタイ病始・1961＝58歳：\_大著「映画史」、

全国総合計画1962＝59歳：\_根岸が死去すると、

大学紛争始・1965＝62歳：「現代の映画」、

いざなぎ景気1966＝63歳：

美濃部都知事1967＝64歳：J・H・ロースン「映画芸術論」訳。\_執拗に運動してきたことで、ついに、GHQに没収されていた「Effects of the Atomic Bombs」フィルムがアメリカから返還されるも、今度は文部省が公開拒否。

霞ヶ関ビル・1968＝65歳：D・W・W・コンデ「CIA黒書」訳。\_世論の批判でしぶしぶ公開するも重要な部分がカットされる。

全共闘・・・1969＝66歳：\_伝記「根岸寛一」。根岸を「生涯において肩書きを持たなかった男」とし、自身もこの評に当てはまる。

トルショック・・・1971＝68歳：岩波新書「現代映画芸術」、

石油ショック1973＝70歳：講談社現代新書「チャーリー・チャップリン」、新日本選書「映画に見る戦後世相史」、エリック・バーナウ「映像の帝国 アメリカ・テレビ現代史」訳。

クアランゴール事件1975＝72歳：朝日選書「ヒトラーと映画」。\_「占領されたスクリーン・わが戦後史」では、「Effects of the Atomic Bombs」事件の一部始終を記して、両国政府に抗議、

田中角栄逮捕1976＝73歳：\_東独のライブツィヒ国際記録・短編映画祭に、戦前のプロキノを代表して「山宣葬」ほか6篇を携えて参加、プロキノは名誉金鳩賞を受賞するなど、

JALハイジャック・1977＝74歳：「日本映画私史」、

貿易摩擦問題1980＝77歳：映画文化最大の保護者川喜多一家との交流も描く「映画が若かったとき 明治・大正・昭和三代の記憶」、

・・・1981＝78歳：「映画の前説」。\*戦闘的映画人としての生涯を貫いて、没した。

風間道太郎「キネマに生きる」、インターネット、